

伊吹山再生

緊急報告・豪雨被害を乗り越える



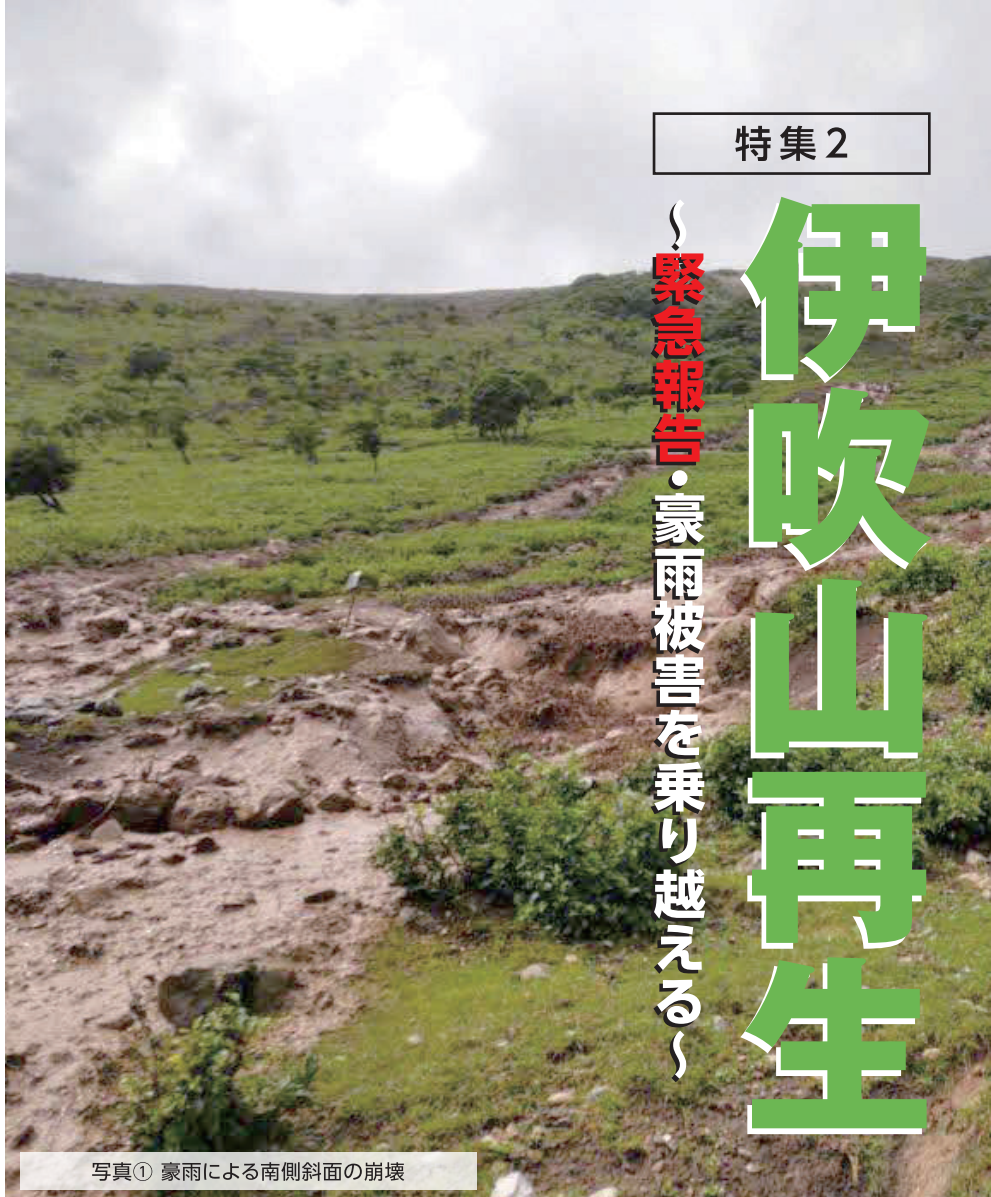
写真② 登山道の崩壊



写真③ 登山口通行止め



写真④ 2004年の南側斜面



写真① 豪雨による南側斜面の崩壊



写真⑤ 2008年のお花畑



写真⑥ 獣害柵とシカ



写真⑦ 林道の復旧

大規模な斜面崩壊の発生

いま伊吹山が危機的状況です。7月12日の集中豪雨と8月の台風により、伊吹山南側斜面の土砂が広範囲に流出しました。これにより、2合目から8合目の登山道の一部が大きく崩れる被害が発生しました。(写真①、②)

この被害により、伊吹山ドライブウェイは利用できるものの、麓からの登山は安全が確保できないため、現在も入山を禁止せざるを得ない状況となっています。(写真③)

愛されてきた伊吹山

滋賀県最高峰で標高1377mの伊吹山は、日本百名山の一つであり、山頂付近一帯が、国の天然記念物に指定されるなど、年間25万人もの方が訪れる人気の山です。(写真④、⑤) また、霊峰・信仰の山としても名高く、古くは古事記や日本書紀にあるヤマトタケルの伝説に伊吹山が登場するほか、伊吹山の名前は、滋賀県を



はじめ岐阜県など東海地方の学校の校歌に歌われるなど、広く多くの人に愛され続けている大切な山です。

斜面の土砂流出の原因

伊吹山では、十数年前からシカ(ニホンシカ)による食害と踏圧で山頂付近の草花が激減し、裸地化による斜面の荒廃が問題となっていました。これは、地球温暖化などの影響により、伊吹山に生息するシカの頭数が増加したことが大きな要因です。

これまでから獣害対策として麓から3合目までにおいてシカの捕獲を進めてきましたが、それより上の高標高域では捕獲したシカの搬出等に課題があり、有効な対策がない中でシカの食害等を止めることができず苦慮していました。(写真⑥)

このような中で、地元団体が登山道の修復を進め、市も植生マットの試験設置などの取り組みを進めていた矢先、今回の集中豪雨により、保水力が低下していた南側斜面の土砂が流出し、大きな被害となっていました。

復旧に向けて

市では、県と共に現地確認を行ったほか、市独自で林道等の応急復旧を行いました。(写真⑦)しかし、6合目以上の登山道の被害が大きく全面復旧の見通しが立たないことから、8月4日に県に早期の復旧を図るための緊急要望を行い、9月1日には、



知事に対して、来年度県予算要望の中で伊吹山の保全と復旧に向けた取り組みの支援を求めました。

さらに、市役所庁内に対策専門チームを立上げ、兼務職員を増やして対応の強化を図っています。

滋賀県では、伊吹山南側斜面の中長期的な復旧対策を検討するため、県と米原市の関係所属で組織する合同プロジェクトチームを立上げ、9月13日の初会議では、現状の対策と今後の取り組みや課題を共有し、伊吹山南側斜面の復旧に向けて、県と市の関係所属が緊密に連携していくことを確認しました。

また、行政、地元、自然保護団体、企業、学識者らが伊吹山の自然再生について協議する「伊吹山自然再生協議会」(以下、協議会)の会議では、県から、登山道の修復について、これまで行われてきた自然に優しい工法を基本に修復に取り組むことや、大きな崩落箇所については小規模な迂回が必要となる可能性が報告されました。

寄付の呼びかけ

市では現在、ふるさと納税サイトで「伊吹山の災害支援」を呼びかけていて、9月18日現在で約430万円(373件)の寄付と復旧を願う声をいただいています。

また、協議会が呼びかけている「伊吹山入山協力金」でも、災害復旧に向け市内外の山岳団体や個人の皆様から多数の支援をいただいています(9月6日現在で19万2千円)。

さらに、8月には企業版ふるさと納税として滋賀特機(株)から伊吹山の保全に対して寄付をいただくなど、

全国から数多くの応援と支援をいただいています。

これらの大切な寄付金は、今後の伊吹山の復旧と保全活動に活用させていただきます。



伊吹山災害復旧支援
寄付受付



再生への道

シカの捕獲による食害の防止、斜面の緑化による土砂流出の防止、獣害柵による草原植物群の保護、登山道の修繕による登山者の安全確保、砂防事業による土砂災害の防止などあらゆる事業を総合的に進める必要があります。

市では、山の保全等を担う伊吹山レンジャーを配置しているほか、シカの捕獲を強化しています。箱ワナや囲いワナによる捕獲の他にも、新たに大型の囲いワナであるドロップネットを使った多頭捕獲や、ドローンを使い高標高域で捕獲したシカの移送などの新たな方法と併せて岐阜県側での広域的なシカの捕獲など獣害対策の強化を進めます。

さらに協議会では、山頂付近の貴重な植物を守るための保護柵の強化、斜面の裸地化対策のための植生回復マットの拡充や鹿の好まない種子の播種事業などの検討が進められています。

自然豊かな米原の宝である伊吹山が再びかつての美しい姿を取り戻せるよう、地元や自然保護団体、関係機関と連携・協力して様々な取り組みを進めることで、大切な伊吹山をしっかりと守り、次世代につなげていくことを目指します。